

| | |
|---------------|---|
| Title | 雑言 |
| Author(s) | 南雲, 道夫 |
| Citation | 全国紙上数学談話会. 114 p.15-p.19 |
| Issue Date | 1936-11-30 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/74444 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

519. 雜 言

南 雲 道 夫 (阪 大)

最近我が國ノ數學者ノ中カラ、數學界ノ現狀ニ對スル種々ナ反省的或ハ批判的ナ意見ヲ感想ヲ時々漏サレルノヲ聞クヤリニナツタ。之ハ今日ノ時代トシテ全ク當然且ツ必然ナモノデアリ、從來カ、ル聲ガ數學界ノ内部ニ殆ド聞カレナカツタコトガ寧ロ奇異デアル。從來カ極端ニ平穩(少クトモ表面上)デアツタダケニ、問題ハコノ特殊ナ世界ニ於テハ突然

アアリ 顕著ナル様ニ見エル。

今日我國ノ數學ノ難題ノ重心ハ「數學ト一般大衆ノ理解トノ絶縁状態」ニアルコトハ明カナル。コノ難題ノ解決ハ學界ノ現状ヲ以テ見レバ殆ド絶望ニ近イノナルガ、決シテ等閑ニ附シ去ルコトハ出来ナイ。

コノ問題ハ今後次第ニ重大化シ、種々ノ紛争ヲ生シ兼ねナイモノナル。只我々ハアクマデモ冷静ニ、區々タル人間的感情ニ捉ハレルコトナク、実質的解決ニ向ツテ何等カノ助力ヲ盡サネバナラマイ。誤解ヲ越エテ理解ヘ。

問題ノ重大サノ割合ニ我々ノ神經ハ細イ。從ツテ一時ノ興奮ハヤカテ古典等ヘノ逃避ヲ、數學者ノ自嘲自罵ニ了リ易イ。ソノ点ハ大イニ反省ト自重トヲ要スル、我々ハ強キ心臓ヲ持タネバナラス。

以上ニツイテ種々ノ考ヘモアルが未ダ少シモマトマツテ居ラズ、発表スベキ時期ニ達シテ居ラスカラ之ヲ止メ、此処ニハ我國ニ於ケル數學専門家内ノ問題ニ視野ヲ限ツテ少シク所感ヲ述べサセテ頂キタイ。

今日ノ數學ハ著シク分化シテ居ルガ、シカモソノ各分科ノ相互間ニ於ケル交渉ハ以前ニモ増シテ複雑トナリ、緊密トナリツヽアルコトハ、実情ヲ知ル者ノヨク知ルトコロナル。カノ「代數、解析、幾何」ナドト云フ古イ分類法ハ實質的意味ヲ全ク失ヒツヽアルコトハ高木先生ノ「過渡期ノ數學」ヲ讀ムデモ理解出来ヨク。然ルニ今日我が國ノ數學専門家相互ニハ研究上ノ連絡ハ極メ乏シイ。

最近局部的＝ハコノ弊が著シク改良サレテ來ヌ。シカシ
全体的＝ハマダ仲々デアル。之レデハ未ダ我國ノ數學界ハ、
外國ノソレノ局部的追従ノ域ヲ脱スルコトスラ困難デアル。
生々トシタ發展＝ハ數學全体ノ有機的影響が必要デアル。
群論——位相幾何——解析——幾何。之ダケ並ベテ見テモヨ
ク分レデアラウ。

扨テ、ソレデハドウシテ各分科間ノ連絡理解ヲ計ルベキ
カ。之＝ハ種々ノ方法ガアルケレドモ結局ハイヅレモ實踐ノ
問題デアル。抽象的ナ觀念ノ世界ニ生活スル我々ハ、カナル
問題ニサヘモ行詰リヤスイ。先ツ第一＝相互扶助ノ重要性＝
對スル充余ナル認識ヲ要スル。ソレ＝ハ又ハリ他ノ方面ノ大
勢ヲ各方面ノ相互關係ノ大要ヲ知ラナケレバナラナイ。從ツ
テ、ソレゾレノ方面ニ關スル大要ヲバ出來ルダケ＝通俗的ニ
紹介スベキデアル。（ソノ程度ハ相手ニヨツテ非常ニ異ルノ
ヲ實踐的困難カ伴フ）

此ノ際先ツ相手ノ豫備知識及ビ知ラント欲スル要點ト程
度トヲ明ラカニスル必要ガアル。相手ノ要求以上＝アマリ深
入リスルコトハ、カヘツテ相互ノ隔離ヲ促スモノデアル。

第二＝ハ相互ノ理解ヲ深メル機會ヲ出來ルダケ多クスル
コトデアルガ、只時間ヲ回数ヲ多クスルダケデハ、各自ノ自
身ノ研究ニ支障ヲ來タシ、從ツテ又遠ガカル危險ヲ生ズル。
ソレ＝ハナルベク相互ノ接觸點ヲ見出シテ、ソレヲ表題トシ
テ、共通ノ談話會ノ機會ヲ作ルヤウ＝努力セネバナラヌ。或
ハ又最も重要ナリト考ヘラレル問題ノミヲ特ニ選ビ之ニツキ

出來ルダケ少シノ豫備知識ヲ理解出來ルヤウ＝可寧＝（然シナガラ証明ノ細カイ所ナドハ適當＝略シテ）話ストコロノ連続的（適當ナ回数＝ワタル）講演（或ハ綜合報告）ヲ行フノハ最も有意義デアリ、之ハ實際少シツツ行ハレテ居ルガ、未ダ充ルテハナイ。

尚コノ目的ノタメ＝モ我が紙上談話會が開放セラレテ居ルコトヲ強調セザルヲ得ナイ。

第三＝ハ専門家各自ノ *original* ノ発表（談話會、或ハ雜誌）＝際シテソノ研究ノ目標ヲ動機及ビ内容ノ大勢ヲバ最初ニ明確ニカ、ゲ、他ノ方面ノ人々＝モソノ問題ガ、ホゞ如何ナルモノカラウシデモヨクナルヤウニ努力ヲ惜ムデハナラナイ。

以上ノコトハ誰シモ考ヘル當然ノコトデアルガ、イザ實際トナルト之ヲモ易シイコトデハナイ。（私自身が自分ノ無精ト偏狭トカラ自カラヲ裏切ツテキルノヲ見出スコトが多い）殊＝第一線ノ追求＝脇目ヲスル暇モナイ新進ヤ、教育者トシテノ経験ノ浅イ青年＝トツテハ、以上ノ要求ハ相當重荷デアル。

此ノ点＝於テハ幾分ナリトモ年效ヲ積ンタ人々＝責任ガアル。中年以上等ノ御方＝是非失若返ツテ裁カナケレバナラナイ。

要スル＝我國ノ數學界＝ハ有機性ト彈力性トが缺ケテ居ル。Felix Klein ノヤツナ傾向ノ人が缺ケテキル。Klein ヲバ宣傳家トカ、「デレツタンチスト」トカ見ル人

モアルガ、日本ノ數學ニハムシロ「デレツタンチスト」が、
不足シテキレ（多スギテモ困ルガ）。紙上談話會ニモ二百ニ
余ル會員ガアル。ソノ内第一線ノ追求等ニ余暇ノナイ人々ハ
何%デアルカ。「デレツタンチスト」ガ居ナイ筈ハナイ。又
ソノ「デレツタンチスト」ガ皆遠慮バカリシテキル筈ハナ
イ。

終リニ私自身ガ「デレツタンチスト」ノ一種デアルガ、
私自身ニハ左右等ニ種々ノ要素ガ混在シテキテ、之ヲ清
算シ得ヌ中途半端ナトコロニ私ノ「デレツタンチズム」ガ
アル。之レハ本物デハナイ。我が國ノ數學界ノ現状打破ト
云フ大問題ノ前ニ、私ハ自分ノ無力ヲ告白スルノミデア
ル。